

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901485		
法人名	医療法人 友愛会		
事業所名	グループホーム サンテラス	ユニット名 2階	
所在地	福岡県福岡市博多区諸岡4-26-16		
自己評価作成日	平成24年6月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年7月25日	評価結果確定日	平成24年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心の通う医療と介護の実現」を理念とし専門的知識や技術を身につけたスタッフがケアにあたります。小規模で家庭的な雰囲気の中で地域の認知症高齢者の方が住み慣れた土地で今迄馴染んできた家具や食器に囲まれ安心して暮らしていただけることを目指した施設です。一人ひとりがその人らしく明るい雰囲気の中でゆっくりとした時間を過ごして頂けるようサポートいたします。隣接している併設の友田病院(救急病院)、訪問看護ステーション太陽、介護老人保健施設サンハウス、ゆうあいデンタルクリニックのバックアップで定期的な健康管理と万一の緊急時には24時間体制で対応できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である救急病院を中心に、歯科、老人保健施設等が隣接しており、スケールメリットや連携を活かしながら、入居者、家族との信頼関係を大切に、安心できる暮らしの環境づくりを目指している。職員からの提案や、研修への意欲も強く、提案により改善された件もあり、職員全体の意識が高い。現在母体の救急病院の建て替え工事が進んでおり、今秋には完成予定である。完成後は、法人を利用する方々や地域にとっても、今以上に便利になり、福祉拠点としての重要性もますます大切になるだろう。法人内の委員会もよく機能している。月ごとに目標を掲げ、接遇にも力を入れている。また防災面では見直しを行い、緊急時には近隣のボランティアの協力も得るなど、地域との関係にも力をいれている。職員がいきいきと、安心して働いていることが伝わり、入居者の安心安全の生活環境にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、その人らしい生活。」を理念に挙げている。職員全員、名札の裏に理念を携帯し、また各フロアにも理念を掲示している。全体会議では毎回、理念を唱和し、再確認しながら共有して実践に繋げている。	「心の通う医療と介護の実現」を柱とし、4項目の理念が作られている。職員の名札にも書かれており、全体会議では、理念を必ず唱和している。ホーム設立8年目の今年、より良いサービス向上に向けて、理念の見直しの意見も出ており、職員一同実践に向け意識を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭へ入居者・職員共に参加している。また、近くの保育園との交流会や中学生の福祉体験の受け入れを行っている。	前年度の課題として「地域との連携強化」を掲げており、目標達成に向けた取り組みが実施されている。職員及び利用者は、積極的に地域の行事に参加されており、交流を深めている。中学生や園児達との交流は楽しみのひとつとなっている。運営推進会議では、市職員による出前講座も実施されており、この機会を活用した地域への情報発信による、福祉拠点としての活動展開も期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭り、忘年会などの行事に地域の民生委員・町内会長やボランティアの方々に参加してもらい、認知症の人と触れ合う機会を設け理解を広めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方々と共に入居者とその家族も一緒に参加して意見交換を行い、積極的に意見を取り入れるようにしている。	運営推進会議には、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得ている。会議の初めにまず、市からの出前講座「食中毒」「口腔ケア」等の研修があり、その後会議が行なわれている。運営報告や行事案内、意見交換などなされ、会議録もきちんと整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市より出前講座に来ていただいたり、運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加していただいている。また、指定内容に変更がある場合には、事前に市の担当者へ相談するようにしている。	出前講座には、市より講師として職員や保健師に来てもらっている。推進会議には地域包括支援センターからの出席もあり、日ごろから、市の担当者と連携をとり、相談体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修に参加し、全体会議前に施設内勉強会を行っている。また、月に一度、身体拘束委員会を開催。各フロアに「身体拘束ゼロの手引き」を配布し、いつでも閲覧できるようにしている。	毎月身体拘束委員会が開催されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外部研修にも参加し、研修後は職員が講師となり伝達講習を行っている。2・3階がグループホームになっているが、各階の出入り口に施錠はされていない。職員と一緒に自由に行き来することができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修に参加し、全体会議前に施設内勉強会を行っている。管理者は、入居者に不審な傷やアザがないか、言葉の暴力はないか、普段から虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は認知症介護実践者研修や市の主催する権利擁護の研修に参加し、成年後見制度などについて学ぶ機会を持ち、施設内勉強会も行っている。	現在制度を活用している方はいないが、近々制度を利用している方が入居される予定である。そのため全体会議の中で研修が組み込まれており、この機会にさらに制度への理解を深める様にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、また改定でサービスの内容や料金の変更が生じた場合は、個別に利用者や家族へ十分な説明を行い、書面に署名をいただくようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に、意見や要望を伺うようにしている。施設内に意見箱も設置し、意見や要望があれば、運営推進会などで議題に挙げている。	ホームからのお便りには、入居者の様子も個別に書き添え情報を提供している。また家族の方が来られた時に話を伺ったり、運営推進会議の場でも意見や要望を伺っている。年1回法人で接遇等に関してのアンケートを実施し、意見を聞く機会が設けられている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体ミーティングの時に意見や提案を聞く機会を設けている。また、よい提案があった時は代表者へ相談し取り入れるようにしている。	月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員間の雰囲気もよく、活潑な意見が出ている。職員の提案で、入居者の食器が軽く扱いやすいものになったのも、その一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修受講の希望がある場合は、できる限り勤務調整し参加できるよう努めている。入職時はオリエンテーションを通じて定期的に話を聞き、不安な事や将来の目標など聞く機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっての性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。職員の目標に合わせて、外部研修参加や資格取得のサポートをできる限りしている。	現在、20代から60代と幅広く採用されており、男性の職員も増えてきている。希望休の取得に向けた配慮や、休憩時間も確保されている。研修や職員の資格取得にもサポート体制が整っており、職員が働きやすい環境が整えられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員が行政主催の人権研修に参加したり、法人内研修や施設内研修などで職員全体に伝達を行い人権教育を行っている。	行政主催の研修には毎回参加しており、他の職員へ伝達講習をし共有を図っている。また内部研修でも、人権学習が計画・実施されている。	

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や管理者研修など個々の能力に合わせて受講資格や希望があればできる限り参加できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の講習会に参加し、お互いの施設を見学したり、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人も見学へ来たいいただき、直接お話しを伺い、安心して入居してもらえるように努力している。また、見学へ来られない方はこちらから面接に出向き要望など伺う様にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みの際は、ご家族に必ず施設を見学に来て頂き、ご家族の悩みや要望、これまでの経緯などお話しを伺う機会を設けている。ご希望や要望にはできる限り添うよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人内の施設を見学へ案内したり、介護保険を申請されていない方には制度を説明し、居宅介護支援事業所などと連携してそれぞれに応じたサービスを提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、介護する側・される側ではなく、歌やレクリエーションで共に楽しい時間を共有し、困っている事などを話し合える関係を築けるように努力している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出・外泊などなるべくご本人とご家族が一緒に過ごす時間を持つよう促している。必要時は、ご家族と職員で話し合える場を設けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の以前住んでいた場所や買い物していたお店、繁華街など馴染みのある場所へ職員やご家族とできるだけ時間を作って行けるように努めている。	以前住んでいたマンションの友人や法人内の老人保健施設にいる知人と会ったり、お墓参りや馴染みの美容室に行ったりしている。センター方式を活用し、馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないよう支援している。	

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や好みを考慮して、職員がコミュニケーションを図りながら仲介し、会話や作業が出来る空間をつくっている。入居者が孤立しないよう、行事や体操へお誘いし、みんなで参加できるよう努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院されている病院へお見舞いへ行ったり、再入居の希望があれば積極的に相談に応じるように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の要望、希望や訴えに対して、出来る限り添えるよう、不安なく生活できるように努めている。あまり意思表示されない方にはこちらから伺い、多くの情報を引き出せるよう努力している。	センター方式を採用している。担当制をとっており、日ごろの気づきを資料に追加していくことで、対応に活かしている。毎日の生活を通して、本人や家族の思いをくみ取り、反映出来る様に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にて情報収集を行う。また、ご家族へセンター方式の記入に協力いただき、これまでの生活歴や経過の把握に努めている。また入居後も回想法など行い、馴染みのあるものなど引き出すようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにゆっくり関わることにより、心身状態など把握でき、理解するよう心掛けている。また、月に1回全体ミーティングにて現状や問題点など情報を共有し話し合う機会を設けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は必ず本人と家族に要望や目標、困っている事など伺うようにしている。また必要時はご家族を交えてカンファレンスも行い担当職員と介護支援専門員が中心となり介護計画を作成している。	本人、家族から話を聴取し、3か月ごとに見直しをしている。ケアプラン経過表で毎日チェックし、達成度をみたり、適切な介護計画になっているかの見直しに役立っている。定期的に、モニタリング、カンファレンスを行い、医師の意見も取り入れ介護計画に反映させている	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へは、日々の記録をわかりやすく記入している。またケアプラン実施経過表にも経過記録を記入し毎月評価をしケアプランの見直しに活かしている。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて介助方法や訓練内容など理学療法士から指導してもらう機会を設けている。また他病院受診の際は、日時の調整や職員が付き添い、現状報告を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の民生委員・町内会長など参加していただき顔なじみとなり、地域の夏祭りや文化祭などに参加して地域交流を支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は同法人の医師が多いため、受診・往診時は職員が対応し、病状や日々の生活について報告を行い健康に生活できるように支援している。また、必要に応じて皮膚科や眼科の往診を依頼している。	家族の希望に添い「かかりつけ医」への受診を支援している。利便性から母体の病院に変更することはあるが、緊急、急変時は連携を生かし速やかに対応しており、利用者や家族にとっても安心できるホームとなっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化や皮膚の状態観察で気づいたことはすぐに看護師へ報告している。主治医との連携や病院受診などは看護師を中心にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院へ入院することが多いため、毎週木曜日の法人内連携会議で主治医やMSWと情報交換している。また、他病院の時もMSWやご家族へ連絡し状況を把握し、記録に残すようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」を説明し同意を頂いている。重度化した場合については、「入居に関しての説明書」を作成し説明を行っている。	「看取りに関する指針」を作成しており、入居時に家族に説明している。重度化した場合は、医師、SW、ホーム職員、家族で話し合い、家族の希望に添える様、支援体制を整えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会にて「救急蘇生法について」の資料と共に蘇生法の訓練を行っている。法人内研修でも「緊急時の対応」についての研修を行う予定となっている。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となって、月に1~2度の防災訓練を行っている。緊急連絡網に地域の方も入っていただき、防災訓練の際は地域の防災担当の方とも連携を取っている。	防災意識が高まりマニュアルも見直しをしている。毎月ホームで避難訓練をし、消防署立ち合いの訓練では通報訓練、蘇生法なども行っている。地域の防災訓練にも職員が参加して、日ごろから地域との関係を大切にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、「正しい敬語を使いましょう。」を、接遇の目標としている。排泄の確認などは、ご本人の耳元でそっと伺うなど誇りを損ねないような言葉かけをしている。	ホームでは二人の接遇委員を置き、月ごとに、「挨拶」「正しい敬語」などの具体的な目標を挙げ、意識を高めている。また写真の掲載に関しても、本人、家族の承諾を得て掲載している。言葉かけや、対応にも配慮し、個別に支援をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者とコミュニケーションを図りながら、ご本人の思いややりたい事などを引き出している。また、いくつかの選択肢があるときはご自分で選べるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり入浴したい方はゆっくり入って頂いたり、散歩希望があれば、なるべく行ける様になど入居者の要望、希望、ペースに合わせて生活していただけるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔の保持を配慮しながら、季節に合わせた服を選ばれるように支援したり、髪型を整えるのをお手伝いしたり、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、配膳・盛り付け、お盆拭きなどで力を発揮してもらっている。食前には旬の野菜や果物などの話を交えて、楽しく、又季節感を味わっていただけるよう心掛けている。	食事は法人内の厨房で一括管理されている。調理の機会がないため、ホームで「おやつ作り」を行い、能力を活かす機会を設けており、毎回楽しみにされている。また、外食の機会もあり、好きなものを食べに行く機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は医師・管理栄養士の指導の下、分量や形態をそれぞれ考慮して提供している。水分の摂取は10時・15時にお茶やコーヒーを提供したり、こまめに飲水の声掛けをしている。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いている。不十分な方は、職員が口腔ケア用ガーゼやスポンジを使用し介助している。また、歯科往診にて定期的に口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握するように努めている。介助が必要な方は、自尊心を傷つけないよう声掛けし、さりげなく支援するようにしている。パッド使用を本人が拒否がされたら、使用中止をしている。	排泄チェック表出パターンを把握して、個別に支援できる様に努めている。声かけをして夜間もトイレに誘導したり、見守りを行っている。介助が必要な方には、さりげなく声をかけ、トイレに誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて冷水を飲んでいただいたり、活動量を増やす為、廊下を歩行したり体操している。また、腹部を温めたり、マッサージしたり、また看護師や医師と相談して便秘を予防している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるように、当日の体調やご本人の希望を聞きながら調整するようにしている。1日おきの入浴を希望している方にはなるべく希望に沿うように努めている。	週2回から3回の入浴になっているが、準備は毎日できており、午前、午後の希望により入浴が可能である。声かけを工夫したり、入浴剤で気分を変えるなどして、心地良く入浴できるよう支援している。水分補給にも配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良がない時の休息は、昼夜逆転しないように注意している。なるべく体操やレクリエーションで日中の活動量を増やし、夜間の安眠を支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬や副作用について不明な点があれば、処方した薬剤師へすぐに確認できるよう連携している。処方変更後、症状変化があれば、直ちに医師へ連絡するようマニュアルを作成している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や特技、好みなどを把握し、遣り甲斐や役割を持って楽しく生活できるよう支援している。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの場所へドライブしたり、天気の良い日は積極的に散歩へ出るようにしている。また、近くのレストランへデザートを食べに行ったり、地域のイベントに参加の機会を多く持てるように努めている。	日曜日には必ずドライブに行き、遠出する場合は企画書を作成し、行きたい所に行けるよう支援している。近くの公園で花見をしたり、散歩がてらコンビニや100円ショップで買い物なども楽しんでいる。車いすの方も、職員が車いすを押して、散歩に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望があれば、入居者にお小遣い程度のお金を所持していただいている。また、買い物の際は、ご自分で支払いができるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各階にある電話は、入居者が自由に使えるようにしている。自分でかけられない方には職員が取次いでいる。手紙のやり取りの支援もしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは環境係りが中心となり、毎月季節感のある飾りつけを行っている。また、居間では童謡や歌謡曲など入居者好みのBGMを流すようにしている。	ホーム入口の壁には、季節を感じさせる飾りつけがされている。リビングは窓が大きくとられ、採光もよく、明るい雰囲気になっている。食堂横のスペースには、テレビやソファが置かれ、ゆっくりと時間を過ごせ、くつろぐことのできる場所が設けられている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、くつろいで過ごしていただいている。入居者同士が声掛けあって居間の1つのテーブルに集まり、歌会を始めた、談笑されたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具は、馴染みのものや好みのものを持ち込み、使っていただいている。家具の配置などは、本人やご家族の希望で行っている。	居室には馴染みのある筆筒や鏡台、テーブル、椅子などが持ち込まれている。趣味の絵を描いたり、好きな単行本が並び読書をしたりと、居心地の良い空間になっている。カーテンもブルーとピンクで統一され明るい雰囲気になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく表示したり、ご自分の部屋が分かるようにさりげなく目印を付けたり工夫している。また車椅子がゆっくり通れるよう、スペースを確保している。		